

組織目標評価報告書(2019年度)

部局名: 生殖補助医療技術教育研究センター

部局長名: 佐野 寛

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
①社会と学生のニーズにマッチした学部・大学院教育の提供を目指し、センター運営委員会 が中心となって教育内容の見直しによるより効果的な教育法の導入に努める。教員のFDに 取り組み、必要に応じて業務の見直しなど、さらなる組織強化に取り組む。 ②「社会連携」、「学内外アカデミア連携」、「きめ細かい学生指導」を柱とした教育を実施す る。 ③コースワークの充実を目指す。 ④コンプライアンス教育、キャリア支援教育などの充実を図る。 ⑤学部・大学院教育ともに、履修状況のチェックと中間評価等を実施し、教育効果の品質を 維持する。生殖補助医療技術特別コースを継続実施・充実する。 ⑥特別コースの内容充実とアカデミックキャリア支援、適切な進路指導を図る。生殖補助医療 技術特別コースについて、研修先・内容の見直しを含めて検証を行う。履修生向けキャリアサ ポート教育、現場技術者向けリカレント教育を充実する。 ⑦国外の教育機関と連携して、生殖補助医療技術教育の充実を試みる。生殖補助医療技術 教育カリキュラム標準化懇談会を開催し、本教育プログラムの国内普及を図る。 ⑧国内外の協力教員の活用に努める。	3-1 4-1 9-1 15-1	
②研究領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	研究領域の目標の達成状況
①研究成果のQ1ジャーナルからの公表に努める。 ② 研究実施体制の強化のため、科研費申請数と採択率の向上および共同研究など外部研 究資金獲得を推進する。学内にとどまらず国内外の研究者との共同研究体制を整備し、研究 拠点化をさらに推進する。 ③ 国際共同研究をさらに推進するとともに、国際交流の活性化を図る。 ④業務整理等による研究推進力の増強に努める。 ⑤生殖補助医療技術教育に関する研究についても積極的に成果を公表する。	36-1 38-1	
③社会貢献(診療を含む)領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況
①生殖補助医療技術の国際的な教育研究拠点として、シンポジウム、リカレント教育、公開・ 出前講座などを実施するとともに、様々なメディアを通じて生殖補助医療に関わる研究成果 を地域、国、および海外へ発信し、地域社会と連携した教育研究を進め、地域社会が求める 知識と情報を積極的に提供する。 ②リカレント教育を東京・大阪で実施する。 ③学部・大学院での特別コースをはじめ、国内外の社会人を積極的に受け入れ、国際的に連 携した教育研究プログラムを開発することで、国際的に活躍できる人材を育成し輩出する。海 外の教育機関と生殖補助医療技術教育に関する情報交換や交流について協議する。 ④生殖補助医療技術教育の全国普及を図り、我が国の生殖補助医療レベルの向上に資す る。	47-1	
④管理運営領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域の目標の達成状況
①執行部との連携を継続的に図りつつ、組織としてガバナンスが効果的に作用する体制の 検証と改善に努める。 ②各部門の質向上と個性化の推進を図る。 ③センターに配分された予算については、効率的・戦略的配分を行なう。 ④概算要求できる事項を検討し、新たなプロジェクトの作成につなげる。 ⑤関係部局の安全衛生委員会と協力し、安全衛生の周知徹底を図る。 ⑥運営委員会および学部・大学院の特別コース等でコンプライアンス遵守の周知徹底と遵守 意識向上を図る。 ⑦関係部局の各種関係プログラムの実施および開発に協力する。	77-1	
⑤センター・機構等業務		
	目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域の目標の達成状況
①学部「生殖補助医療技術キャリア養成特別コース」、大学院「生殖補助医療学コース」を 実施するとともに、内容見直し・改善を継続的に実施する。 ②受講者アンケートを実施し、リカレント教育内容の充実を図る。 ③現場で胚培養士として活躍中の社会人の博士前期・後期課程への入学を推進する。関係 大学院研究科との連携による生殖補助医療技術教育研究のグローバル化を推進する。 ④外国人留学生を積極的に受け入れるとともに、英語での教育体制について検討する。 ⑤海外の教育・医療機関と生殖補助医療技術教育研究について交流を図る。 ⑥国内での生殖補助医療技術教育の普及を推進する。生殖補助医療技術教育研究カリキ ュラム標準化懇談会を事務的にサポートする。 ⑦事務業務の見直し・システム化を推進する。	①学部「生殖補助医療技術キャリア養成特別コース」、大学院「生殖補助医療学コース」を実施する とともに、内容見直しを実施した。 ②受講者アンケートを実施し、リカレント教育内容の見直しを図った。 ③現場で胚培養士として活躍中の社会人の博士前期・後期課程への入学を推進した。 ④スペインとイタリアから留学生を受け入れ、英語での教育を行った。 ⑤スペインの教育・医療機関と生殖補助医療技術教育研究について学生の派遣を含む交流を図 った。 ⑥国内での生殖補助医療技術教育の普及を推進するために、生殖補助医療技術教育研究カリキ ュラム標準化懇談会を事務的にサポートした。 ⑦事務業務の見直し・システム化を推進し、予算執行の厳格化を行った。	